

# 点検ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■104■

先日、板倉町を訪問した。町のホームペー  
ジで水塚が残っているのを知り、実際に見に行つたのだ。水塚は、敷地内に数階の高さの土盛りをして、その上に避難場所となる建物を建てたものだ。渡良瀬川と利根川が合流する地域で水害に苦しめられた人々が、命と財産を守るために築いたのだ。

私の古里茨城の祖父母の家にも水塚があった。私の四代前の祖先が「もっこ」を担いで土を運んだと聞いている。いったい何回土を運べば水塚の高さになったのだろう。

## 板倉町の水塚

板倉の水塚を眺めながら、先人たちの粘り強い努力のおかげで、今の私たちの命や生活があるのだと改めて思った。

# 災害リスク歩いて確認

群馬県は災害の少ない県として知られているが、1947（昭和22）年のカスリーン台風では大きな被害を受けている。また、2019年の台風19号の被害も記憶に新しい。利根川流域には、水田のほかにも広い平地を生かした大規模な物流施設、商業施設、工場、

住宅も立地しているの  
で、水害が発生すれば  
経済活動には大きな打  
撃となり得る。  
防災の情報源として、各自治体が公表しているハザードマップがある。もともと、マップが細かく分割されていて、見たい場所がすぐに分からないのが  
ハザードマップを重ねて表示することが出来る。  
今回は、スマホで「重ねるハザードマップ」を見ながら板倉町を探みると、浸水被害が予想される地域の小高い土地に、さらに土盛りして水塚があり、昔の人の知恵と今のデータ  
津波などのハザードマップのほか、避難場所も表示できる。学習目的で、いろいろな土地の災害リスクと対策を考えるパーチャルツアもできるように思う。  
今年は、記録的な暑さとともに梅雨明けし、北日本や北陸などで大雨による被害が発生した。自分の住む土地にどんなリスクがあるのかを知ることは、防災の始めの一歩だ。正しいリスク認識に基づいて対策を考えることは、群馬経済の頑丈な土台になる

た。  
群馬県は災害の少ない県として知られているが、1947（昭和22）年のカスリーン台風では大きな被害を受けている。また、2019年の台風19号の被害も記憶に新しい。利根川流域には、水田のほかにも広い平地を生かした大規模な物流施設、商業施設、工場、

難点と想っていたが、国土交通省が運営する「重ねるハザードマップ」という便利なサイトがあることを知った。このサイトでは、日本各地の地図にハザードマップでは、土砂災害や

肥後秀明（ひい・ひであき） 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局審査企画課長兼上席審査役、金融機構局審査運営課長兼上席審査役などを



を経て2022年4月から現職。